Ⅵ　死亡の推移

※死亡に関するデータは保健福祉年報（人口動態編）から引用し、必要に応じ統計的処理を行っている

1　死亡数の推移

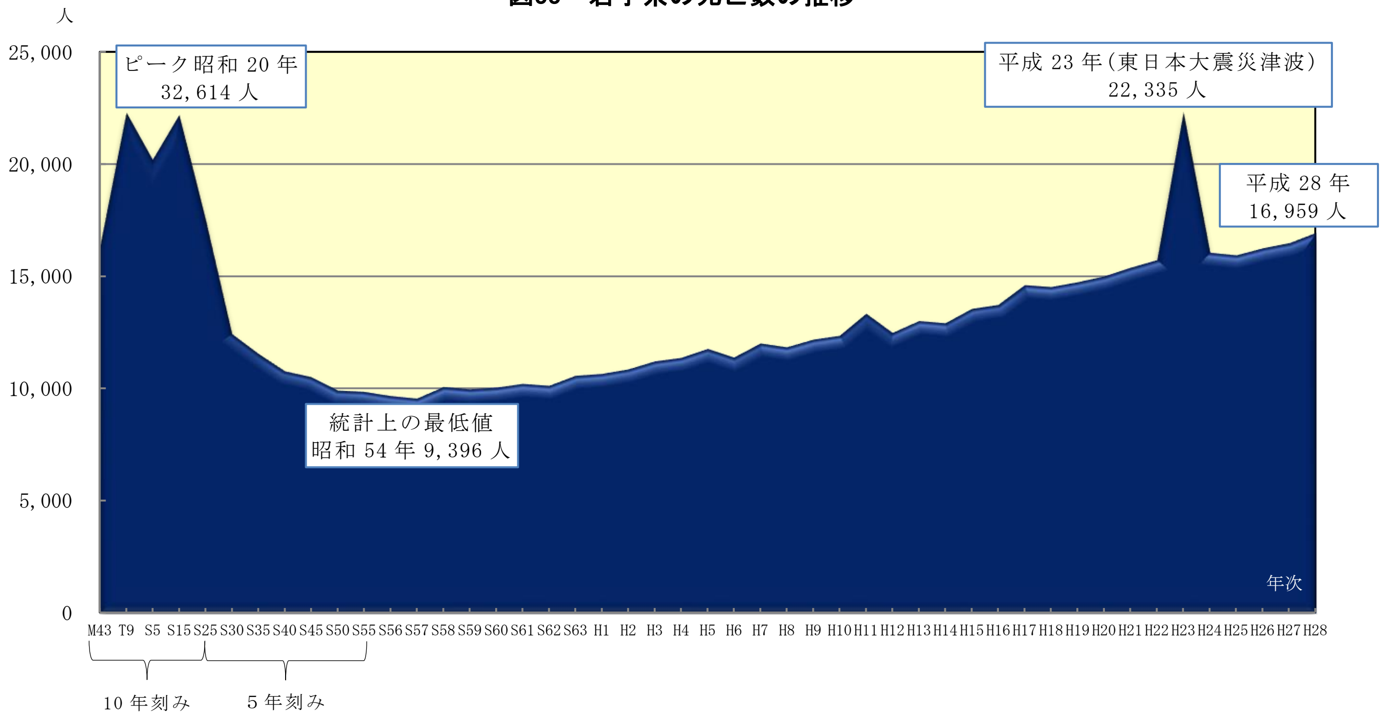
岩手県の死亡数は、昭和 20 年の終戦の年に 32,614 人の**ピーク**に達するが、その後は大きく**減少**し、昭和 54 年に、近年の統計上最も少ない 9,396 人となっている（図 33）。

その後は**増加**に転じており、最新年には 16,959 人となっている。内訳としては、男性が 8,459 人、女性が 8,500 人であり、女性の死亡数が僅かに多い。

なお、東日本大震災津波があった平成 23 年が 22,335 人と、近年で最も高い死亡数となっている。

岩手県死亡数最新値（H28 年）16,959 人
内訳　男性 8,459 人
女性 8,500 人

図33　岩手県の死亡数の推移



2 死亡率の推移

明治 43 年から最新年までの約 110 年間の死亡率（人口千人当たりの死亡数）の推移を全国値と共に示す（図 34）。

岩手県の死亡率は、大正 7 年の 30.2 をピークに、その後は着実に**減少**していたものの、昭和 60 年頃から**微増**に転じている。

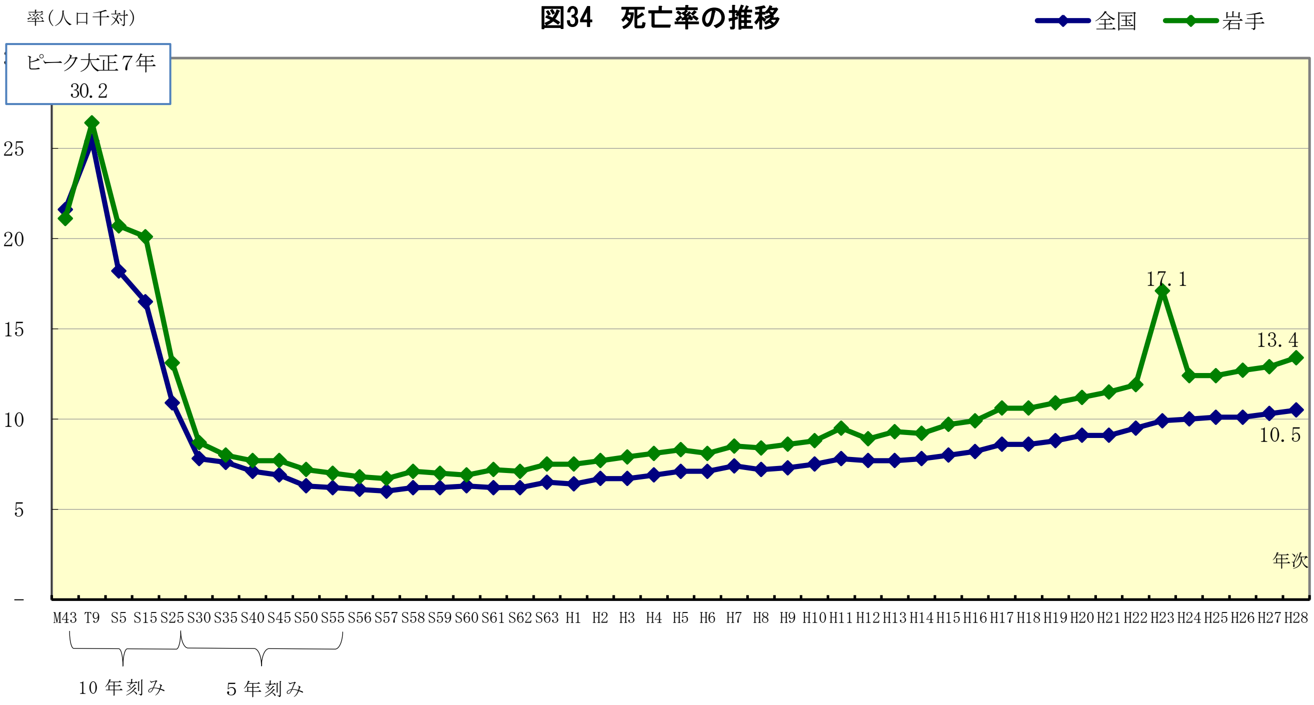
なお、東日本大震災津波があった平成 23 年が 17.1 と、近年で最も高い死亡率となっている。

死亡率は、常に本県が全国を上回っているが、近年、その差が徐々に広がっており、最新年では 2.9 の差となっている。

岩手県死亡率最新値（H28 年）13.4

全国死亡率最新値（H28 年） 10.5

図34　死亡率の推移



次に、東北六県の比較を目的に、当該県の当該年及びその前後 3 年分の人口及び死亡数の合計による死亡率を求め、昭和 56 年（昭和 55 年～57 年の 3 年分平均）から最新年である平成 27 年（平成 26 年～28 年の 3 年分平均）までの推移を示す（図 35）。

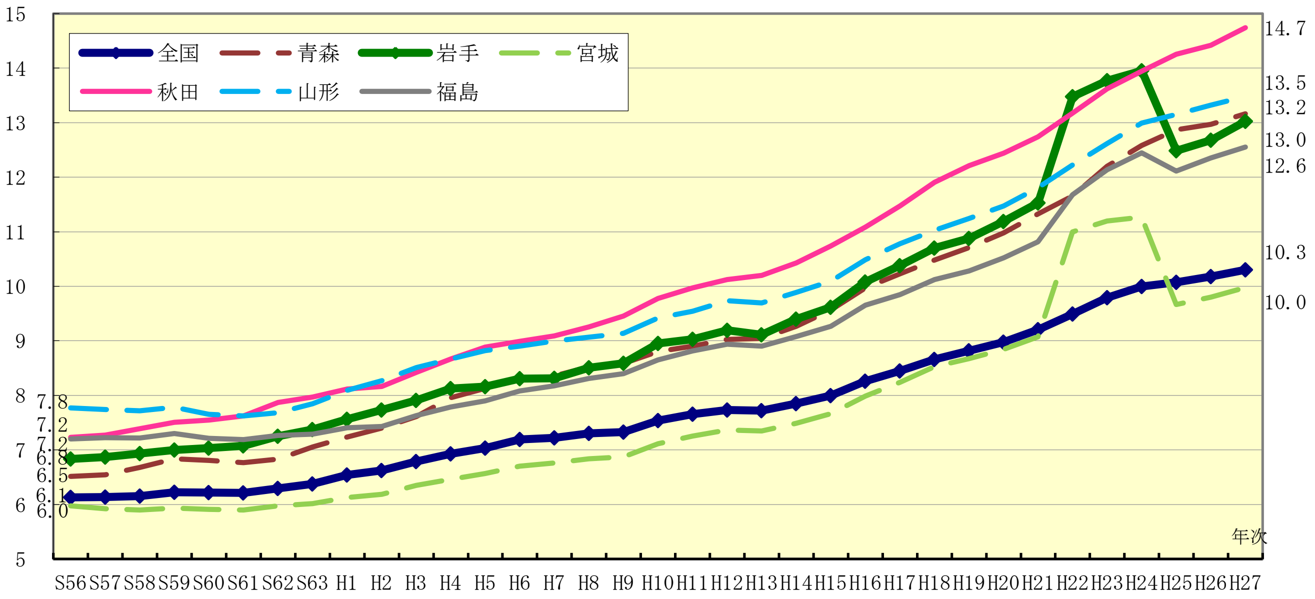
各県とも、死亡率は**増加**しているが、特に秋田県が、他の県に比較しても増加のスピードが速い状況となっている。

なお、平成 22 年から平成 24 年にかけて本県、宮城県及び福島県の死亡率が高いのは、平成 23 年の東日本大震災津波の影響と考えられる。

最新年（３年分の平均）の各県の死亡率を高い順に並べると、秋田県が 14.7、山形県が 13.5、青森県が 13.2、本県が 13.0、福島県が 12.6 となっている。

最も低い宮城県は 10.0 で、全国を下回っており、最も高い秋田県とは 4.7 の差となっている。

図35　全国（単年）及び東北六県（３年分の平均）の死亡率の推移



※縦軸の目盛は、本来０からのスケールであるべきだが、県毎との相違がわかりにくいことから５からの設定とした

3　年齢調整死亡率の推移

死亡率は、出生率同様人口構成の影響を大きく受ける。

一般的に高齢になるほど亡くなる人が増えることから、死亡数を人口で除して求める死亡率の場合、分母である人口の中に高齢者の割合が多くなるほど、分子である死亡数が増えることが多く、結果として死亡率が増加することとなる。

そこで、経年変化や地域間の比較を行うため、どの地域も同じ年齢構成に調整した年齢調整死亡率を求め、昭和 59 年から最新年までの約 30 年の男女別の推移を全国値とともに示す（図 36）。

年齢調整死亡率＝当該地域の０歳～４歳の死亡率（０歳～４歳の死亡数／０歳～４歳の当該地域人口）を算出し、０歳～４歳の「昭和 60 年モデル人口」にかけあわせ、モデル人口における死亡者数を求める。５歳以降も５歳刻みの年齢階級毎に同様の作業を行い、全ての死亡者数を合計する。これを「昭和 60 年モデル人口」合計で除し十万をかけあわせる（率：人口十万対）。

※岩手県の死亡率は、当該年の死亡者数を当該年の日本人人口で除して求めた。この際、不祥人口は、年齢階級毎の人口比で案分した数を各年齢階級人口に加えている。

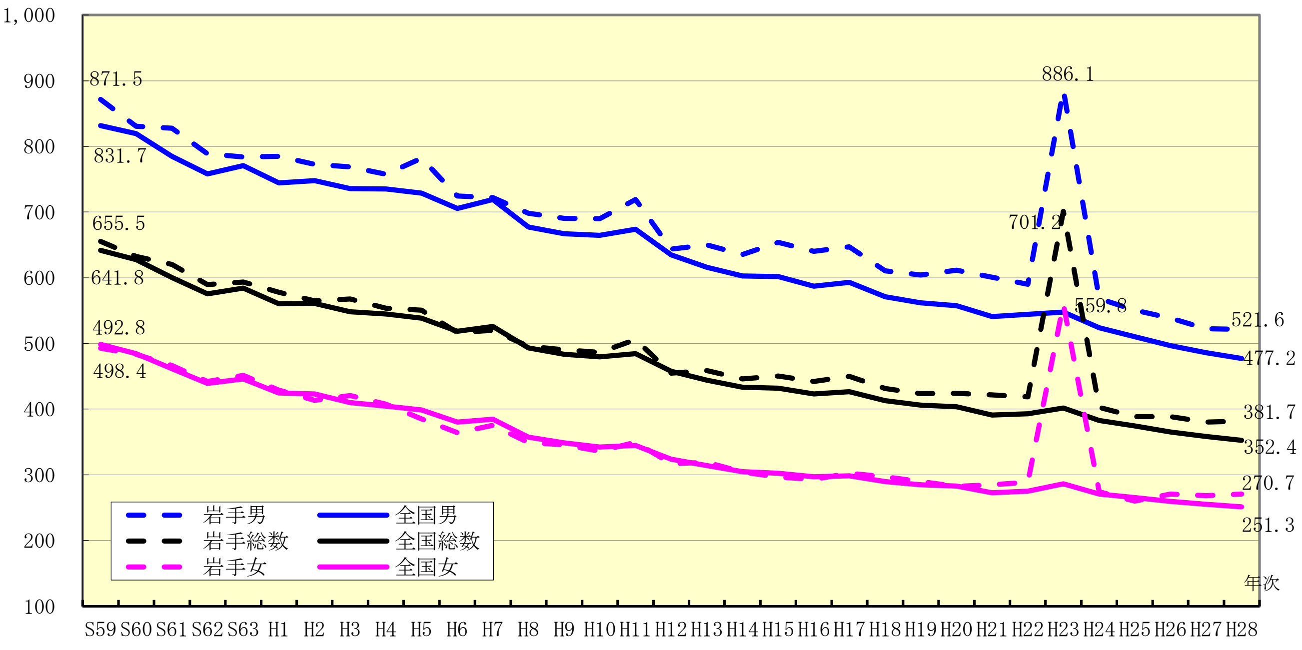
死亡率は、近年、**微増**となっていたが、年齢調整死亡率では、全国、岩手県及び男女別全てで**減少**している。

ただし、東日本大震災津波があった平成 23 年が、本県の近年で最も高い年齢調整死亡率となっている。

また、死亡数は男性が女性より僅かに少ない状況であったが、年齢調整死亡率では、男性が女性のほぼ倍近い値となっている。

全国との比較では、男性が常に全国を上回って推移している一方、女性は全国と同程度で推移している。

図36　年齢調整死亡率の推移



※縦軸の目盛は、本来0からのスケールであるべきだが、全国との相違がわかりにくいことから 100 からの設定とした

次に、昭和 59 年から最新年までの約 30 年の岩手県の主要疾患別年齢調整死亡率の推移を示す（図 37）。

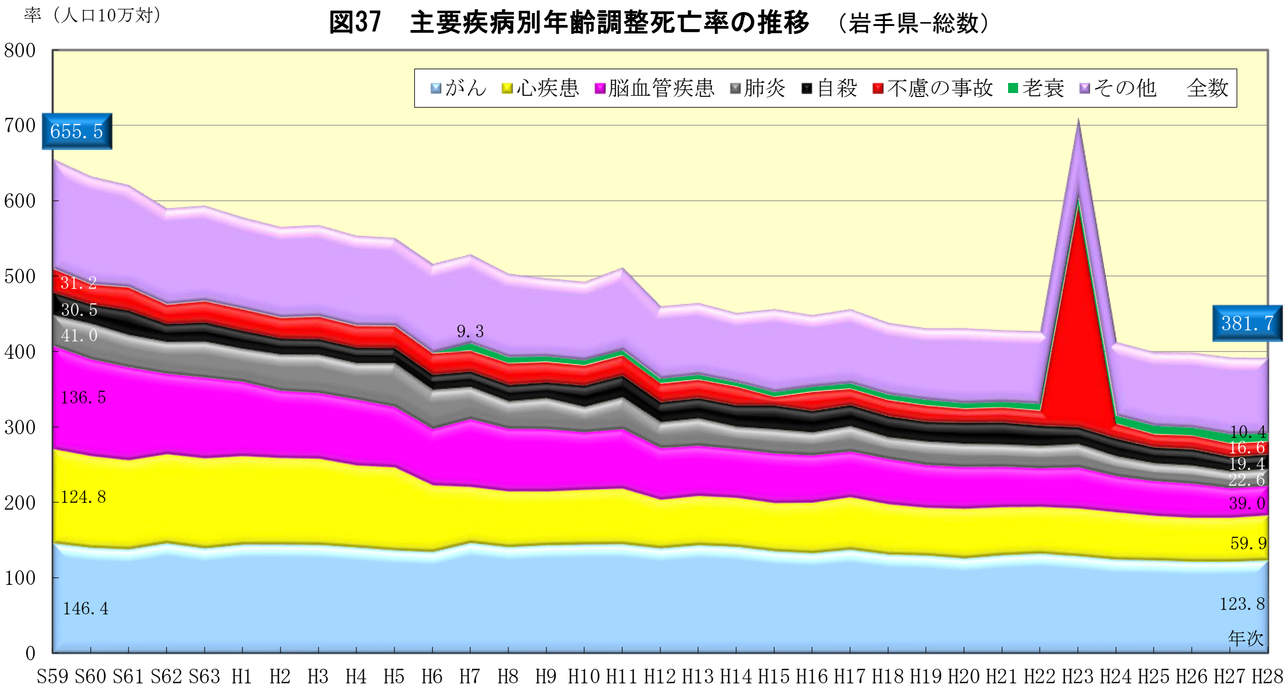


図37　主要疾病別年齢調整死亡率の推移　（岩手県-総数）

※老衰は平成７年からの表記となる。

最新年の主要疾病別年齢調整死亡率について、高率順５位までの全国と岩手県との比較を示す（表８）。

１位はがん、２位は心疾患、３位は脳血管疾患、４位は肺炎、５位が自殺で全国と同じ順位となっているが、心疾患は２割程度、脳血管疾患は４割程度、自殺が３割程度全国より高い状況となっている。

表８　平成 28 年主要疾病別年齢調整死亡率高率順位（人口 10 万対）

高率順	１位	２位	３位	４位	５位
全国	がん (119.6)	心疾患 (47.8)	脳血管疾患 (27.4)	肺炎 (23.8)	自殺 (14.7)
岩手	がん (123.8)	心疾患 (59.9)	脳血管疾患 (39.0)	肺炎 (22.6)	自殺 (19.4)
全国との差	4.2	12.1	11.6	-1.2	4.7

次に、岩手県の主要疾患別の平成 18 年の年齢調整死亡率を 100%とした場合の最新年の年齢調整死亡率の割合を算出し、「大きく増加（120%以上)」、「若干増加（110%以上 120%未満)」、「若干減少（80%以上 90%未満)」、「大きく減少（80%未満)」の４区分別に示す（表９）。なお、４区分に該当していない主要疾病はほぼ横ばいと捉えることができる。

この 10 年余りで大きく増加しているのが老衰となっている。

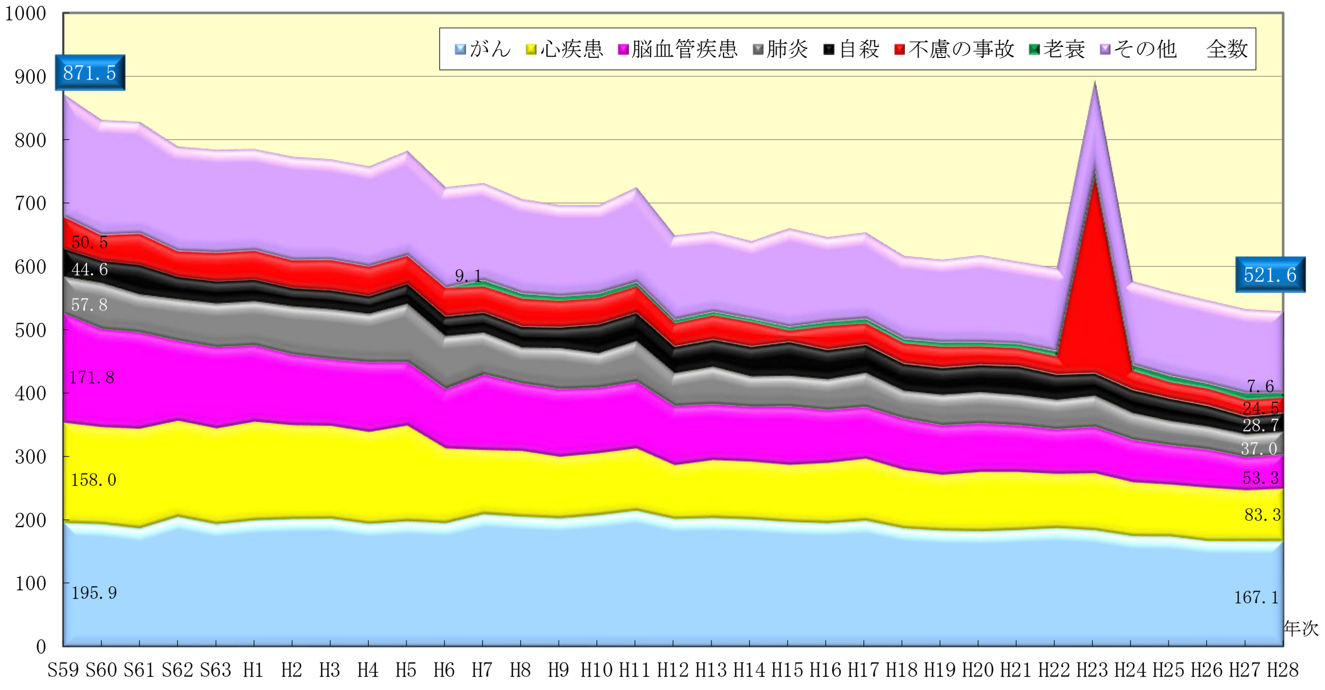
一方で大きく減少しているのが、肺炎、不慮の事故、自殺及び脳血管疾患となっている。

表９　総数主要疾病別－平成 18 年年齢調整死亡率を 100%とした場合の平成 28 年の年齢調整死亡率の割合

区　分	該当する主要疾病名（割合）
大きく増加（120%以上）	老衰（157.4%）
若干増加（110%以上 120%未満）	-
若干減少（80%以上 90%未満）	がん（94.3%）、心疾患（89.6%）
大きく減少（80%未満）	肺炎（78.2%）、不慮の事故（77.4%）、自殺（69.2%）、脳血管疾患（65.1%）

同じく、昭和 59 年から最新年までの約 30 年の岩手県**男性**の主要疾患別年齢調整死亡率の推移を示す（図 38）。

図38　主要疾病別年齢調整死亡率の推移（岩手県–男性）



最新年の**男性**の主要疾病別年齢調整死亡率について、高率順５位までの全国と岩手県との比較を示す（表 10）。

１位のがん、２位の心疾患は全国と同じ順位となっているが、３位の脳血管疾患と４位の肺炎は全国と順位が逆転している。５位は自殺で全国と同じ順位となっている。

心疾患及び自殺は３割程度、脳血管疾患は５割程度全国より高い状況となっている。

表 10　平成 28 年男性の主要疾病別年齢調整死亡率高率順位（人口 10 万対）

高率順	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
全国	がん (161.7)	心疾患 (64.5)	肺炎 (36.9)	脳血管疾患 (36.2)	自殺 (21.1)
岩手	がん (167.1)	心疾患 (83.3)	脳血管疾患 (53.3)	肺炎 (37.0)	自殺 (28.7)
全国との差	5.7	18.8	17.1	0.1	7.6

次に、岩手県**男性**の主要疾患別の平成 18 年の年齢調整死亡率を 100%とした場合の最新年の年齢調整死亡率の割合を算出し、「大きく増加（120%以上）」、「若干増加（110%以上 120%未満）」、「若干減少（80%以上 90%未満）」、「大きく減少（80%未満）」の 4 区分別に示す（表 11）。

男性でも、大きく増加しているのが老衰となっている。

一方で大きく減少しているのが不慮の事故、自殺及び脳血管疾患となっている。

表 11　男性主要疾病別－平成 18 年年齢調整死亡率を 100%とした場合の平成 28 年の年齢調整死亡率の割合

区　分	該当する主要疾病名（割合）
大きく増加（120%以上）	老衰（125.8%）
若干増加（110%以上 120%未満）	―
若干減少（80%以上 90%未満）	がん（89.2%）、肺炎（82.8%）
大きく減少（80%未満）	不慮の事故（76.5%）、自殺（67.5%）、脳血管疾患（66.2%）

同じく、昭和 59 年から最新年までの約 30 年の岩手県**女性**の主要疾患別年齢調整死亡率の推移を示す（図 39）。

さらに、最新年の**女性**の主要疾病別年齢調整死亡率について、高率順 5 位までの全国と岩手県との比較を示す（表 12）。

1 位はがん、2 位は心疾患、3 位は脳血管疾患、4 位は肺炎、5 位は老衰で全国と同じ順位となっているが、心疾患は 2 割程度、脳血管疾患は 3 割程度全国より高く、肺炎は 1 割程度、老衰は 2 割程度全国より低い状況となっている。

図39　主要疾病別年齢調整死亡率の推移（岩手県-女性）

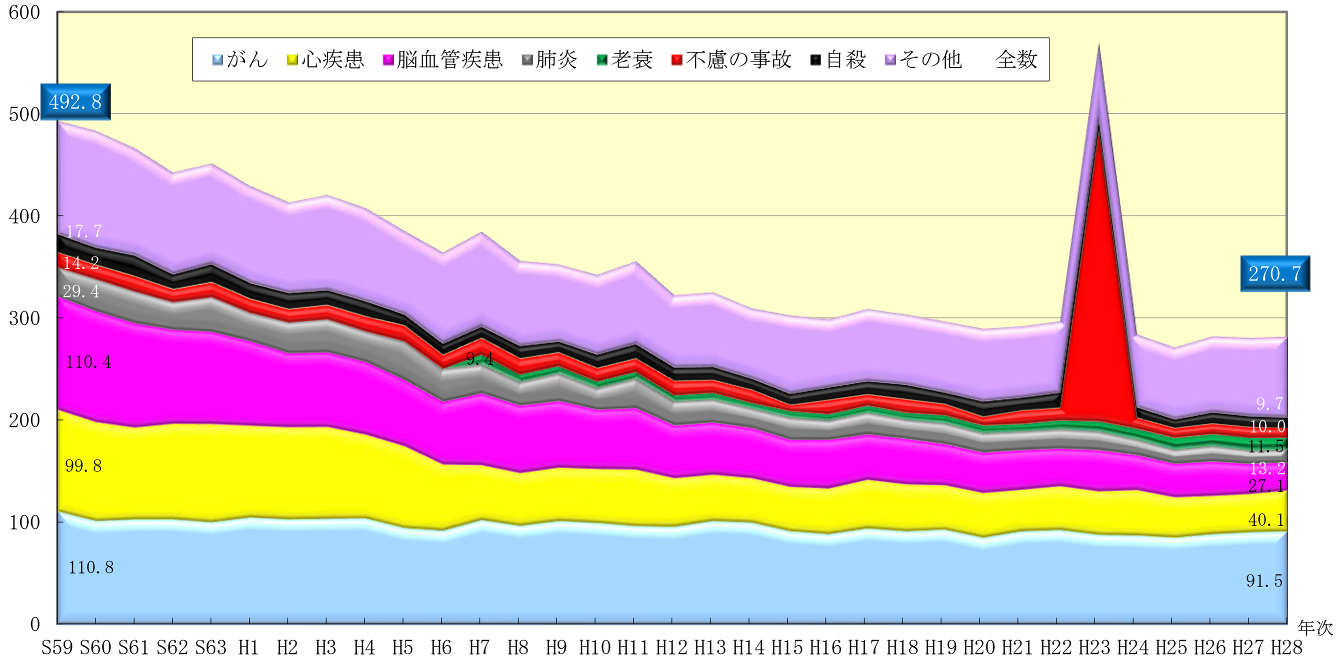


表 12　平成 28 年女性の主要疾病別年齢調整死亡率高率順位（人口 10 万対）

高率順	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
全国	がん (87.6)	心疾患 (33.1)	脳血管疾患 (20.0)	肺炎 (15.0)	老衰 (14.0)
岩手	がん (91.5)	心疾患 (40.1)	脳血管疾患 (27.1)	肺炎 (13.2)	老衰 (11.5)
全国との差	4.2	7.0	7.1	-1.8	-2.5

次に、岩手県**女性**の主要疾患別の平成 18 年の年齢調整死亡率を 100%とした場合の最新年の年齢調整死亡率の割合を算出し、「大きく増加（120%以上）」、「若干増加（110%以上 120%未満）」、「若干減少（80%以上 90%未満）」、「大きく減少（80%未満）」の４区分別に示す（表 13）。

女性でも、大きく増加しているのが老衰となっている。

一方で大きく減少しているのが不慮の事故、自殺、肺炎及び脳血管疾患となっている。

表 13　女性主要疾病別－平成 18 年年齢調整死亡率を 100%とした場合の平成 28 年の年齢調整死亡率の割合

区　分	該当する主要疾病名（割合）
大きく増加（120%以上）	老衰（171.6%）
若干増加（110%以上 120%未満）	－
若干減少（80%以上 90%未満）	心疾患（86.8%）
大きく減少（80%未満）	不慮の事故（77.7%）、自殺（69.9%）、肺炎（68.0%）、脳血管疾患（60.9%）

4　65歳未満の年齢調整死亡率の推移

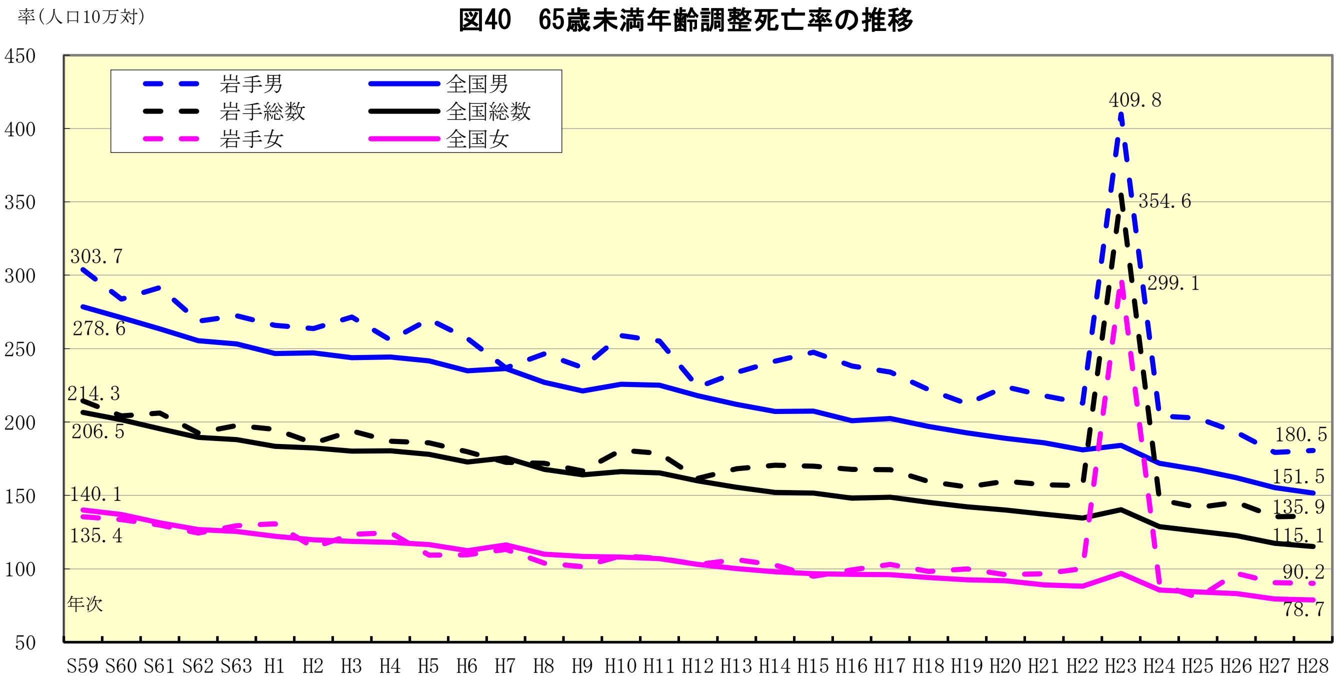
「早世（65 歳未満の死亡）予防」の観点から、昭和 59 年から最新年までの約 30 年の 65 歳未満の年齢調整死亡率の男女別の推移を全国値とともに示す（図 40）。

65 歳未満でも、全国、岩手県及び男女別全てで**減少**しているが、東日本大震災津波があった平成 23 年が、本県の近年で最も高い年齢調整死亡率となっている。

全死亡同様、男性が女性のほぼ倍近い値となっている。

さらに、男性が常に全国を上回って推移している一方、女性は全国と同程度で推移している。

図40　65歳未満年齢調整死亡率の推移



※縦軸の目盛は、本来0からのスケールであるべきだが、全国との相違がわかりにくいことから 50 からの設定とした

次に、昭和 59 年から最新年までの約 30 年の岩手県の 65 歳未満主要疾患別年齢調整死亡率の推移を示す（図 41）。

さらに、最新年の 65 歳未満主要疾患別年齢調整死亡率を高率順５位までの全国と岩手県との比較を示す（表 14）。

１位のがんは全国と同じ順位となっているが、２位の心疾患と３位の自殺は全国と順位が逆転している。４位の脳血管疾患と５位の不慮の事故は全国と同じ順位となっている。

がんが１割程度、心疾患及び不慮の事故が４割程度、自殺が３割程度、脳血管疾患が６割程度全国より高い状況となっている。

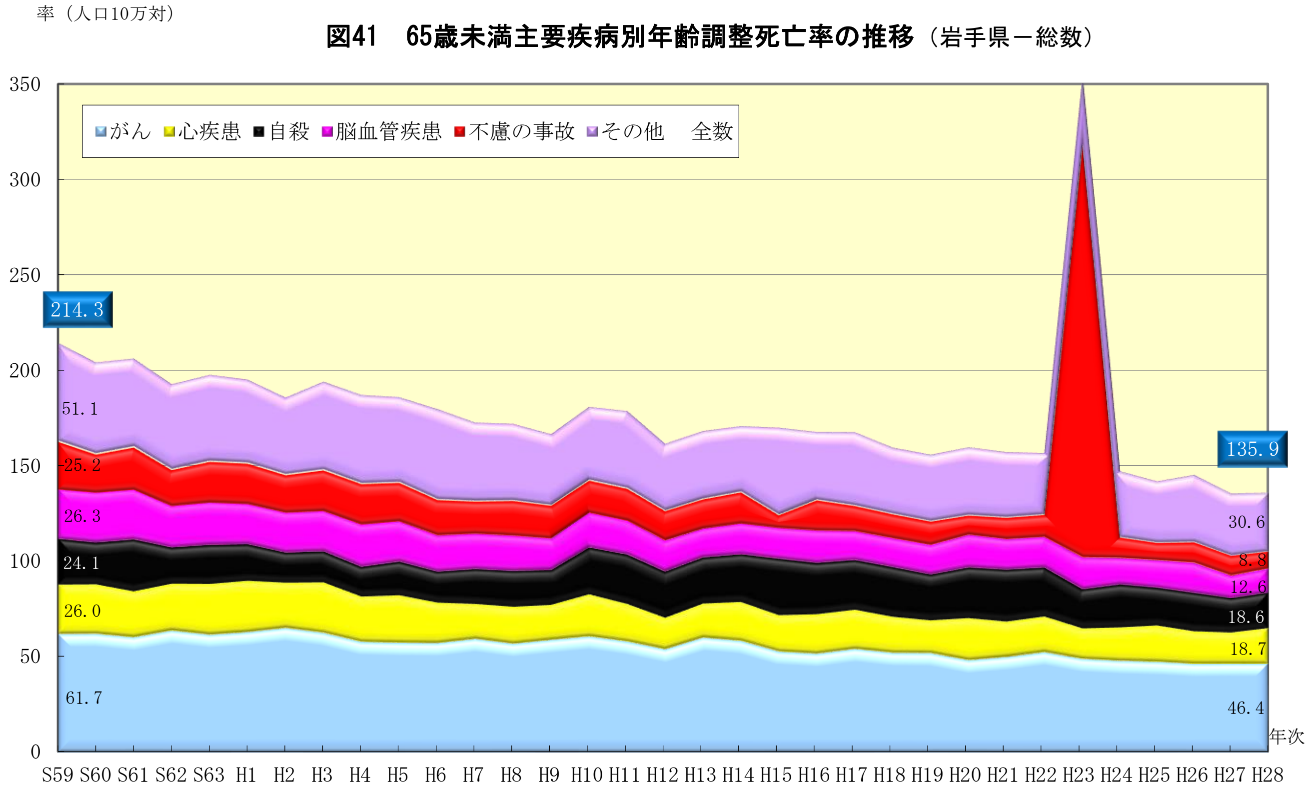


表 14　平成 28 年 65 歳未満主要疾病別年齢調整死亡率高率順位（人口 10 万対）

高率順	１位	２位	３位	４位	５位
全国	がん（42.2）	自殺（14.0）	心疾患（12.9）	脳血管疾患（7.8）	不慮の事故（6.4）
岩手	がん（46.4）	心疾患（18.7）	自殺（18.6）	脳血管疾患（12.6）	不慮の事故（8.8）
全国との差	4.2	5.8	4.6	4.8	2.4

次に、岩手県の 65 歳未満主要疾患別の平成 18 年の年齢調整死亡率を 100%とした場合の最新年の年齢調整死亡率の割合を算出し、「大きく増加（120%以上)」、「若干増加（110%以上 120%未満)」、「若干減少（80%以上 90%未満)」、「大きく減少（80%未満)」の４区分別に示す（表 15)。なお、４区分に該当していない主要疾病はほぼ横ばいと捉えることができる。

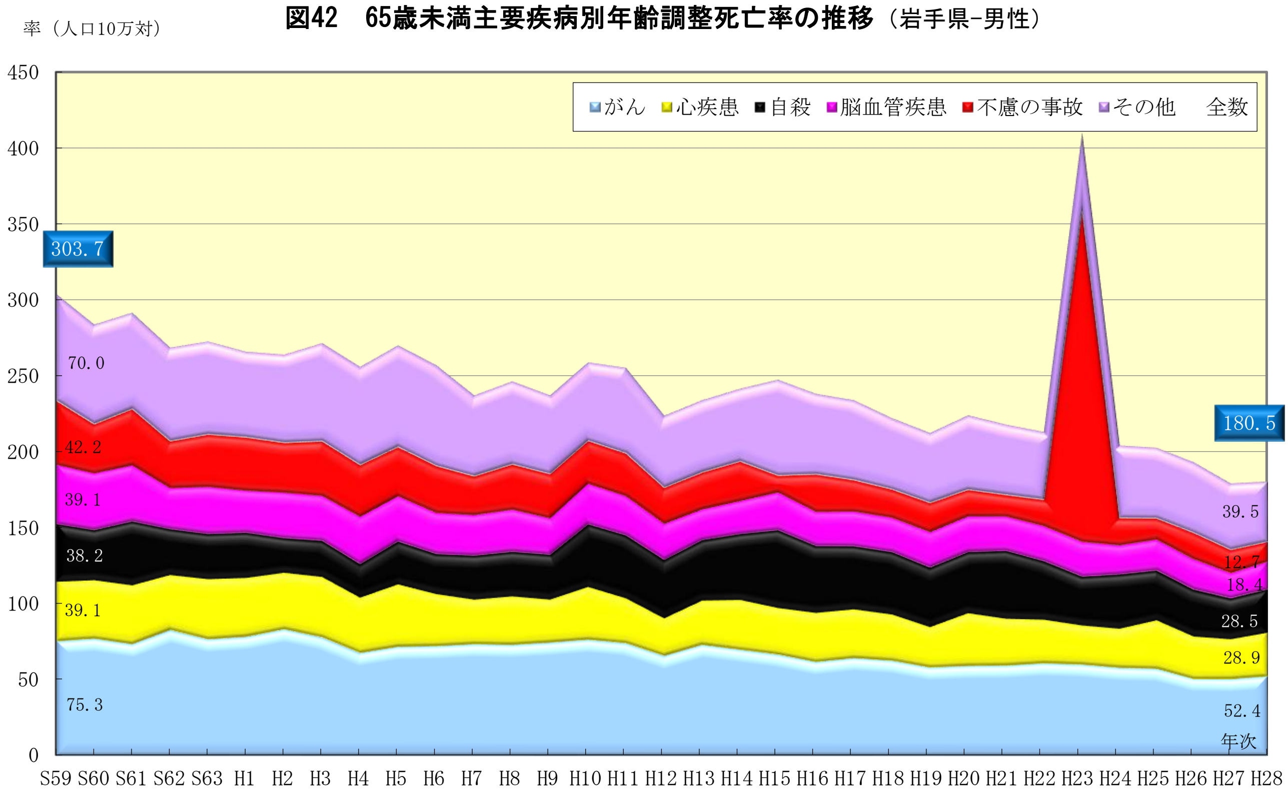
この 10 年余りで大きく減少しているのが、自殺及び不慮の事故となっている。

表 15　65 歳未満総数主要疾病別－平成 18 年年齢調整死亡率を 100%とした場合の
平成 28 年の年齢調整死亡率の割合

区　分	該当する主要疾病名（割合）
大きく増加（120%以上）	―
若干増加（110%以上 120%未満）	―
若干減少（80%以上 90%未満）	がん（89.4%）、脳血管疾患（82.9%）
大きく減少（80%未満）	自殺（71.4%）、不慮の事故（70.3%）

次に、岩手県**男性**の 65 歳未満主要疾患別年齢調整死亡率の昭和 59 年から最新年までの約 30 年の推移を示す（図 42）。

図42　65歳未満主要疾病別年齢調整死亡率の推移（岩手県−男性）



最新年の**男性**の 65 歳未満主要疾患別年齢調整死亡率について、高率順５位までの全国と岩手県との比較を示す（表 16）。

１位はがん、２位は心疾患、３位は自殺、４位は脳血管疾患、５位は不慮の事故と全国と同じ順位となっているが、がんが１割程度、心疾患及び自殺が４割程度、脳血管疾患が７割程度、不慮の事故が３割程度全国より高い状況となっている。

表 16　平成 28 年男性 65 歳未満主要疾病別年齢調整死亡率高率順位（人口 10 万対）

高率順	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
全国	がん（46.7）	心疾患（20.4）	自殺（20.3）	脳血管疾患（10.8）	不慮の事故（9.7）
岩手	がん（52.4）	心疾患（28.9）	自殺（28.5）	脳血管疾患（18.4）	不慮の事故（12.7）
全国との差	5.7	8.5	8.2	7.6	3.0

次に、岩手県**男性**の 65 歳未満主要疾患別の平成 18 年の年齢調整死亡率を 100%とした場合の最新年の年齢調整死亡率の割合を算出し、「大きく増加（120%以上）」、「若干増加（110%以上 120%未満）」、「若干減少（80%以上 90%未満）」、「大きく減少（80%未満）」の４区分別に示す（表 17）。

男性でも、大きく減少しているのが、自殺及び不慮の事故となっている。

表 17　男性 65 歳未満主要疾病別－平成 18 年年齢調整死亡率を 100%とした場合の
平成 28 年の年齢調整死亡率の割合

区　分	該当する主要疾病名（割合）
大きく増加（120%以上）	－
若干増加（110%以上 120%未満）	－
若干減少（80%以上 90%未満）	がん（83.8%）、脳血管疾患（80.5%）
大きく減少（80%未満）	自殺（69.7%）、不慮の事故（69.0%）

同じく、岩手県**女性**の 65 歳未満主要疾患別年齢調整死亡率の昭和 59 年から最新年までの約 30 年の推移を示す（図 43）。

さらに、最新年の岩手県**女性**の 65 歳未満主要疾患別年齢調整死亡率について、高率順５位までの全国と岩手県との比較を示す（表 18）。

１位はがん、２位は自殺、３位は心疾患、４位は脳血管疾患、５位は不慮の事故で全国と同じ順位となっているが、心疾患及び不慮の事故が５割程度、脳血管疾患が４割程度全国より高い状況となっている。

率（人口10万対）

図43　65歳未満主要疾病別年齢調整死亡率の推移（岩手県-女性）

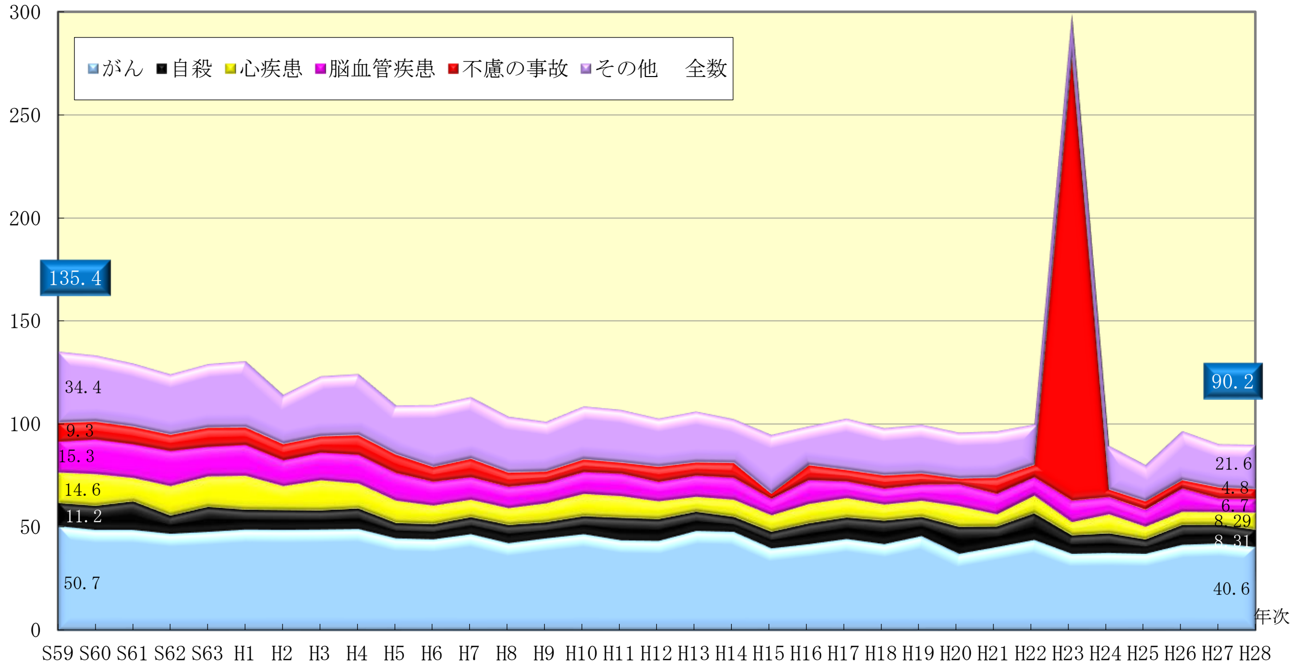


表 18　平成 28 年女性 65 歳未満主要疾病別年齢調整死亡率上位 5 疾患（人口 10 万対）

高率順	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
全国	がん （37.9）	自殺 （7.6）	心疾患 （5.3）	脳血管疾患 （4.9）	不慮の事故 （3.1）
岩手	がん （40.6）	自殺 （8.3）	心疾患 （8.3）	脳血管疾患 （6.7）	不慮の事故 （4.8）
全国との差	2.7	0.7	3.0	1.8	1.7

次に、岩手県**女性**の 65 歳未満主要疾患別の平成 18 年の年齢調整死亡率を 100%とした場合の最新年の年齢調整死亡率の割合を算出し、「大きく増加（120%以上）」、「若干増加（110%以上 120%未満）」、「若干減少（80%以上 90%未満）」、「大きく減少（80%未満）」の 4 区分別に示す（表 19）。

女性でも、大きく減少しているのが、自殺及び不慮の事故となっている。

表 19　女性 65 歳未満主要疾病別－平成 18 年年齢調整死亡率を 100%とした場合の
平成 28 年の年齢調整死亡率の割合

区　分	該当する主要疾病名（割合）
大きく増加（120%以上）	－
若干増加（110%以上 120%未満）	－
若干減少（80%以上 90%未満）	脳血管疾患（85.6%）
大きく減少（80%未満）	自殺（73.2%）、不慮の事故（72.8%）

5　保健所別死亡等の推移

平成８年から最新年までの約 20 年の保健所別死亡数を表 20 に示す。
年次により多少の増減はあるものの、すべての保健所管内で死亡数は**増加**している。

表 20　保健所別年次別死亡数（単位：人）

	H8	H13	H18	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H8 年との差	H8 を 100 とした際の H28 の割合
県央	3,161	3,550	4,139	4,811	4,852	4,719	4,857	5,063	5,032	1,871	159.2
中部	1,995	2,308	2,540	2,866	2,759	2,854	2,763	2,721	2,977	982	149.2
奥州	1,323	1,492	1,642	1,918	1,764	1,777	1,918	1,840	1,895	572	143.2
一関	1,460	1,653	1,787	2,112	1,993	1,911	1,976	1,995	2,017	557	138.2
大船渡	745	836	874	3,125	873	937	897	960	960	215	128.9
釜石	673	721	819	3,031	781	760	803	807	801	128	119.0
宮古	1,081	1,082	1,270	2,666	1,365	1,246	1,294	1,371	1,410	329	130.4
久慈	688	634	712	829	733	841	812	786	886	198	128.8
二戸	744	763	769	977	952	924	954	959	981	237	131.9
岩手県	11,870	13,039	14,552	22,335	16,072	15,969	16,274	16,502	16,959	5,089	142.9

５年刻み

次に、平成８年から最新年までの約20年の保健所別年齢調整死亡率を表21に示す。

年次により多少の増減はあるものの、すべての保健所管内で年齢調整死亡率は**減少**している。

ただし、沿岸地域の東日本大震災津波による被害が甚大であった保健所においては、平成 23 年が、近年で最も高い年齢調整死亡率となっている。

表 21　保健所別年次別年齢調整死亡率（単年：人口 10 万対）

	H8	H13	H18	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H8 年との差	H8 を 100 とした際の H28 の割合
県央	476.8	438.5	417.5	413.1	396.0	368.1	372.9	376.4	362.1	-114.7	75.9
中部	480.6	468.8	426.2	411.9	397.4	385.2	364.1	351.6	370.7	-110.0	77.1
奥州	482.4	451.1	420.7	413.3	364.4	374.8	382.4	353.0	363.0	-119.4	75.3
一関	490.4	462.7	436.2	442.6	410.4	381.8	402.5	389.3	394.4	-96.0	80.4
大船渡	472.3	441.7	416.9	2,616.9	388.3	398.7	382.1	374.2	374.2	-98.1	79.2
釜石	539.0	492.5	498.1	3,120.0	470.7	442.4	453.4	476.5	437.0	-102.0	81.1
宮古	534.1	476.9	492.9	1,371.5	450.5	418.7	421.9	433.8	428.7	-105.4	80.3
久慈	605.0	484.8	448.2	465.2	380.3	443.0	428.3	396.2	421.1	-183.9	69.6
二戸	531.2	493.7	437.2	473.8	467.8	453.6	444.4	411.3	452.8	-78.4	85.2
岩手県	495.5	458.5	431.4	701.2	402.6	388.5	388.4	380.2	381.7	-113.8	77.0

５年刻み

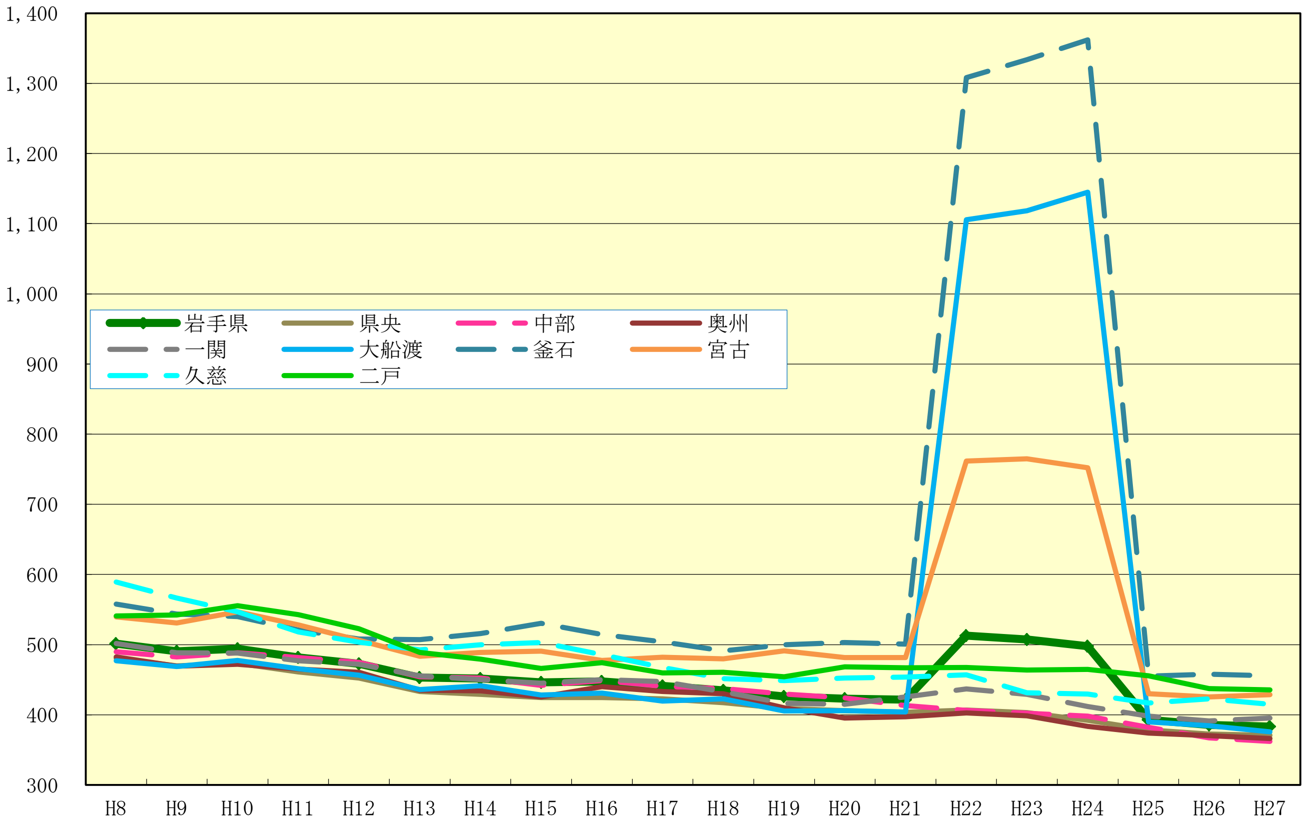
「**３　年齢調整死亡率の推移**」で記述したとおり、死亡数や死亡率だけの地域比較は難しいこと、また年齢調整死亡率であっても地域規模が小さいほど、疾病分類が詳細になるほど単年では年次変動が大きいことから、当該年及びその前後の３年分のデータを用いた年齢調整死亡率を算出する。

平成８年（３年分）から平成 27 年（３年分）までの保健所別の総死亡の年齢調整死亡率（人口 10 万対）の推移（図 44）及び 65 歳未満の年齢調整死亡率（人口 10 万対）の推移（図 45）を示す。

年次により若干の変動はあるものの、各保健所とも年齢調整死亡率は緩やかに**減少**している。

率(人口10万対)

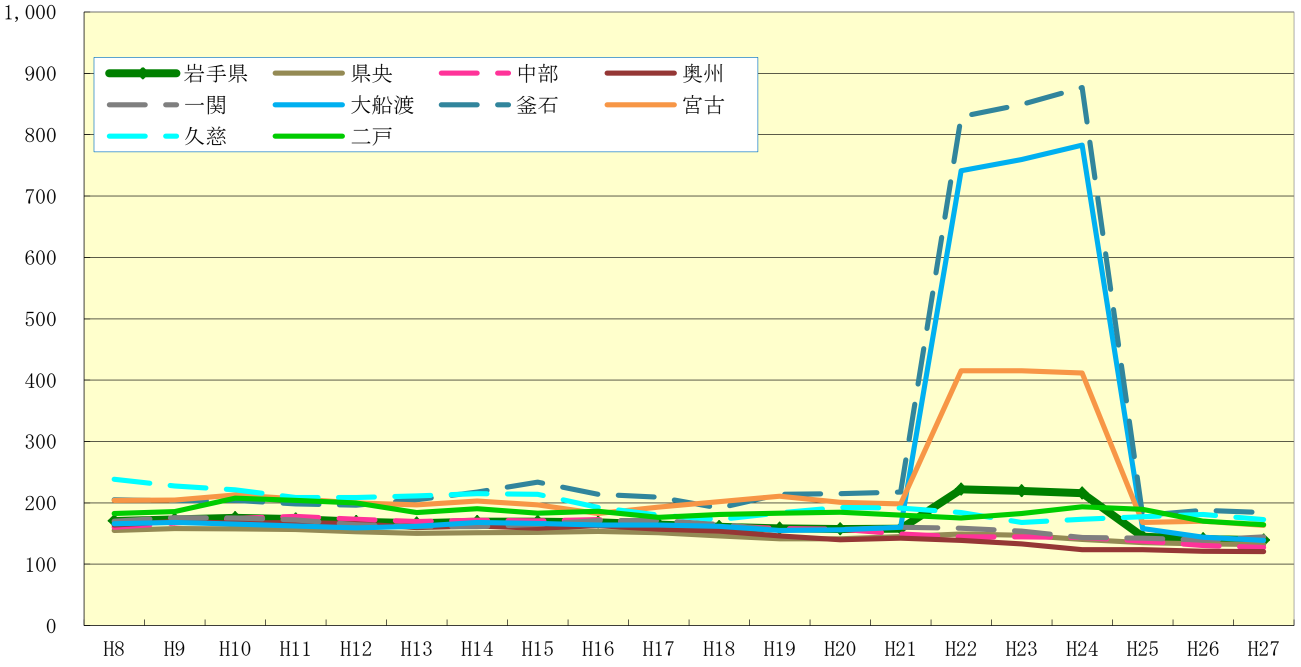
図44　保健所別総死亡年齢調整死亡率（３年分）の推移



※縦軸の目盛は、本来０からのスケールであるべきだが、保健所毎の相違がわかりにくいことから 300 からの設定とした

率(人口10万対)

図45　保健所別65歳未満年齢調整死亡率（３年分）の推移



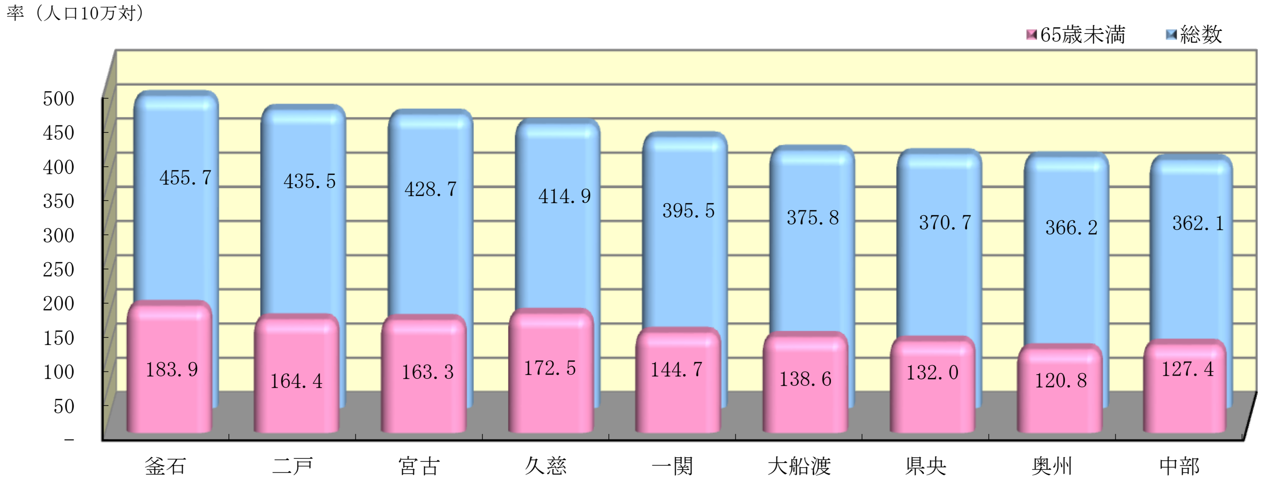
さらに、最新年（３年分）の総死亡の年齢調整死亡率及び 65 歳未満の年齢調整死亡率について保健所別に示す（図 46)。

総死亡の年齢調整死亡率で最も高いのが釜石保健所管内であり、最も低い中部保健所管内とは 93.6 の差となっている。

釜石保健所管内は、65 歳未満の年齢調整死亡率も最も高く、最も低い奥州保健所管内とは 63.1 の差となっている。

また、久慈保健所管内は、総死亡では高率順で４番目であるが、65 歳未満では、釜石に次いで高い値となっている。

図46　保健所別総死亡年齢調整死亡率及び65歳未満年齢調整死亡率（３年分）



同じく、平成８年（３年分）から平成 27 年（３年分）までの保健所別の**男性**の総死亡の年齢調整死亡率の推移（図 47）及び 65 歳未満の年齢調整死亡率の推移（図 48）を示す。

年次により若干の変動はあるものの、各保健所とも年齢調整死亡率は緩やかに**減少**している。

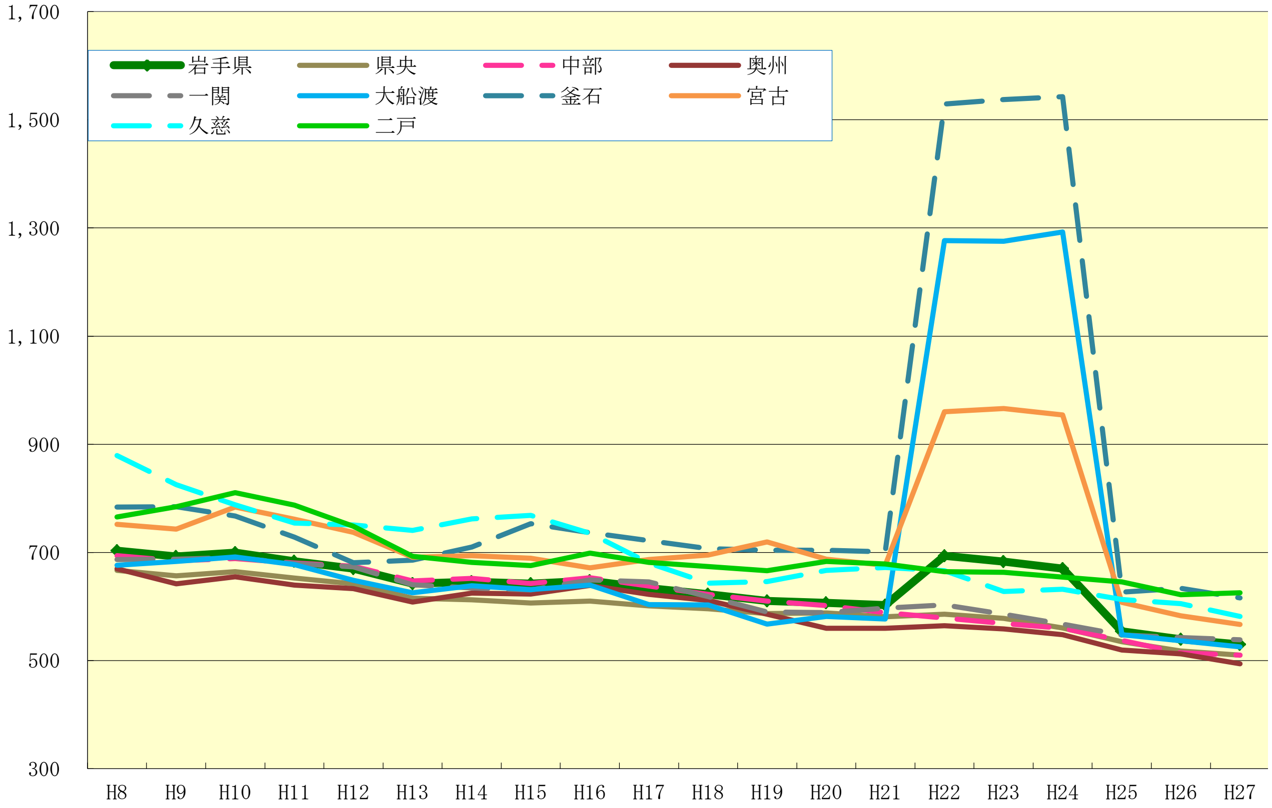
さらに、最新年（３年分）の**男性**の総死亡の年齢調整死亡率及び 65 歳未満の年齢調整死亡率について保健所別に示す（図 49)。

男性では、総死亡の年齢調整死亡率で最も高いのが二戸保健所管内であり、最も低い奥州保健所管内とは 131.1 の差となっている。

65 歳未満では、久慈保健所管内が最も高く、総死亡と同じく最も低い奥州保健所管内とは 72.5 の差となっている。65 歳未満の年齢調整死亡率は、久慈保健所管内に次いで釜石保健所管内、二戸保健所管内の順となっている。

率(人口10万対)

図47　保健所別総死亡年齢調整死亡率（３年分）の推移（男性）



※縦軸の目盛は、本来0からのスケールであるべきだが、保健所毎の相違がわかりにくいことから300からの設定とした

率(人口10万対)

図48　保健所別65歳未満年齢調整死亡率（３年分）の推移（男性）

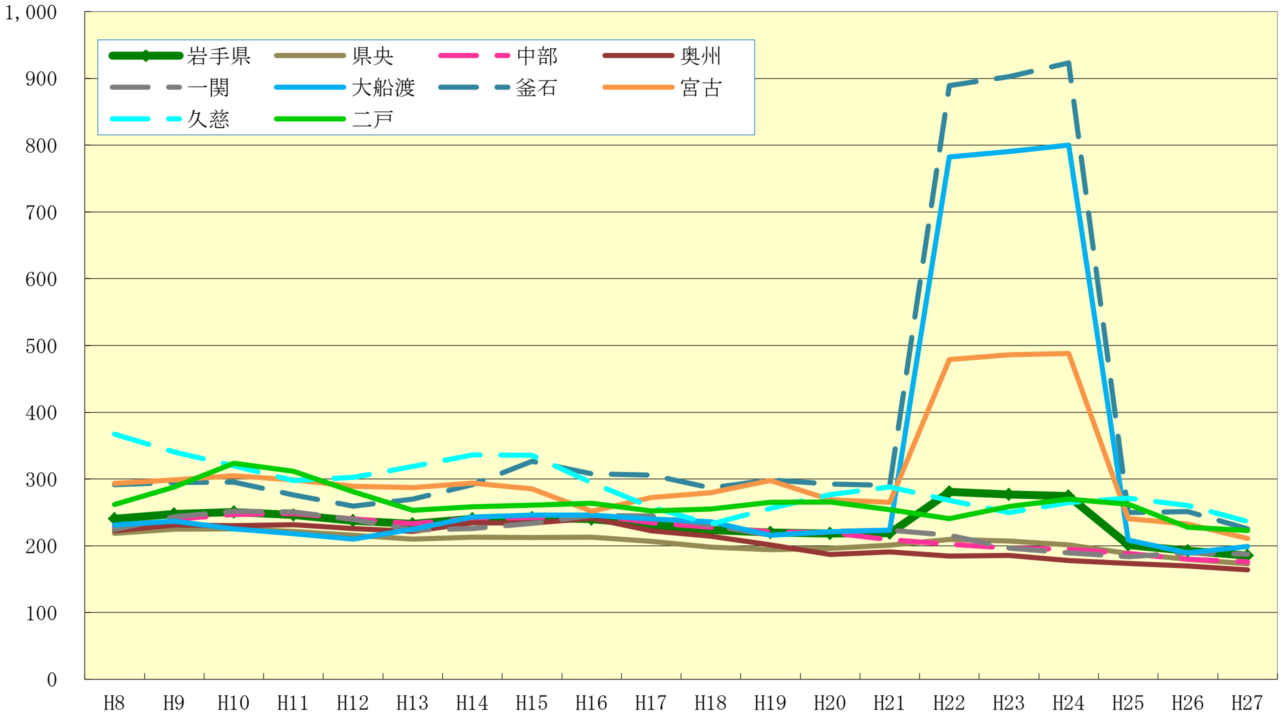
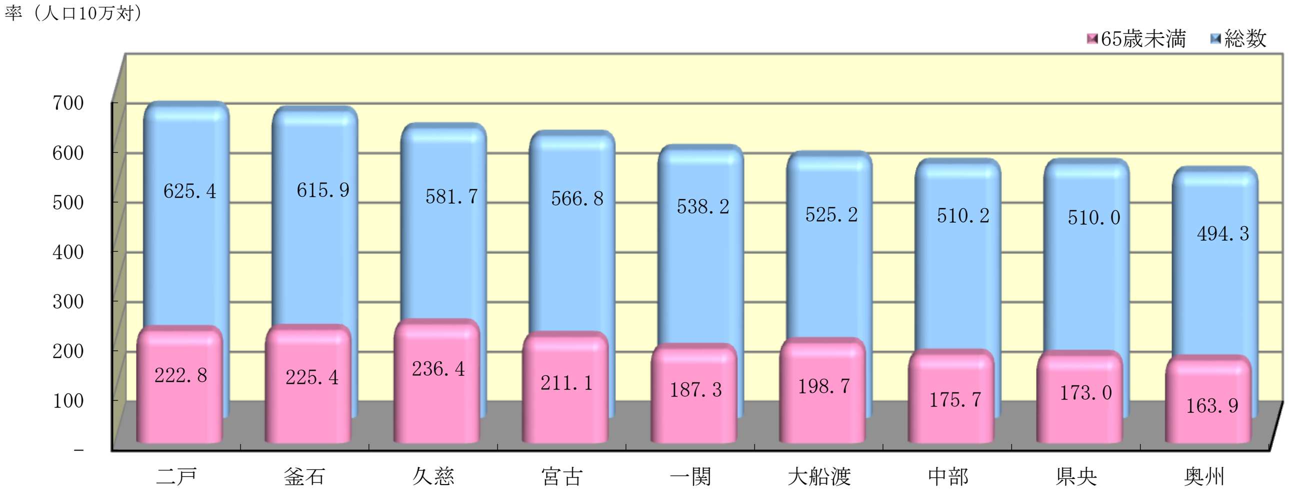


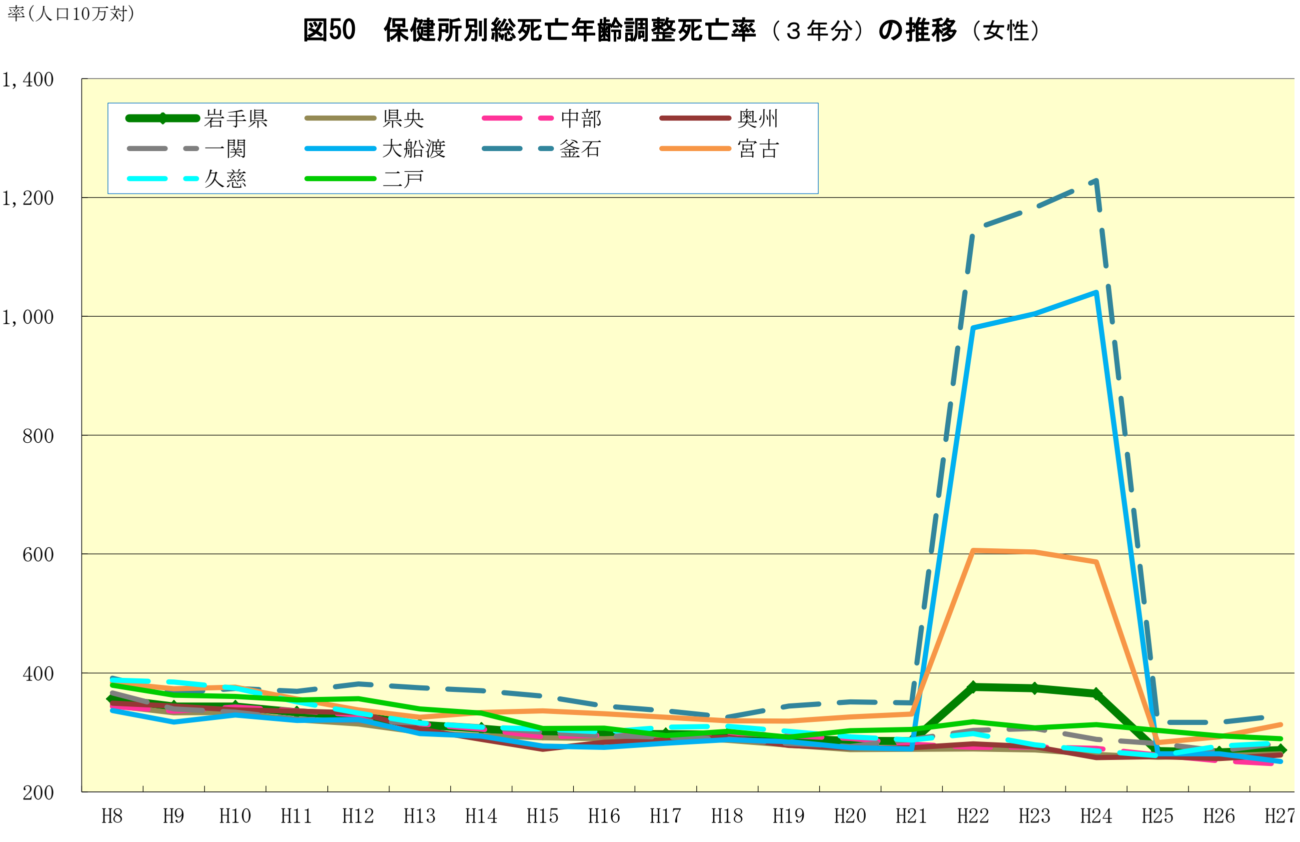
図49　保健所別総死亡年齢調整死亡率及び65歳未満年齢調整死亡率（男性-３年分）



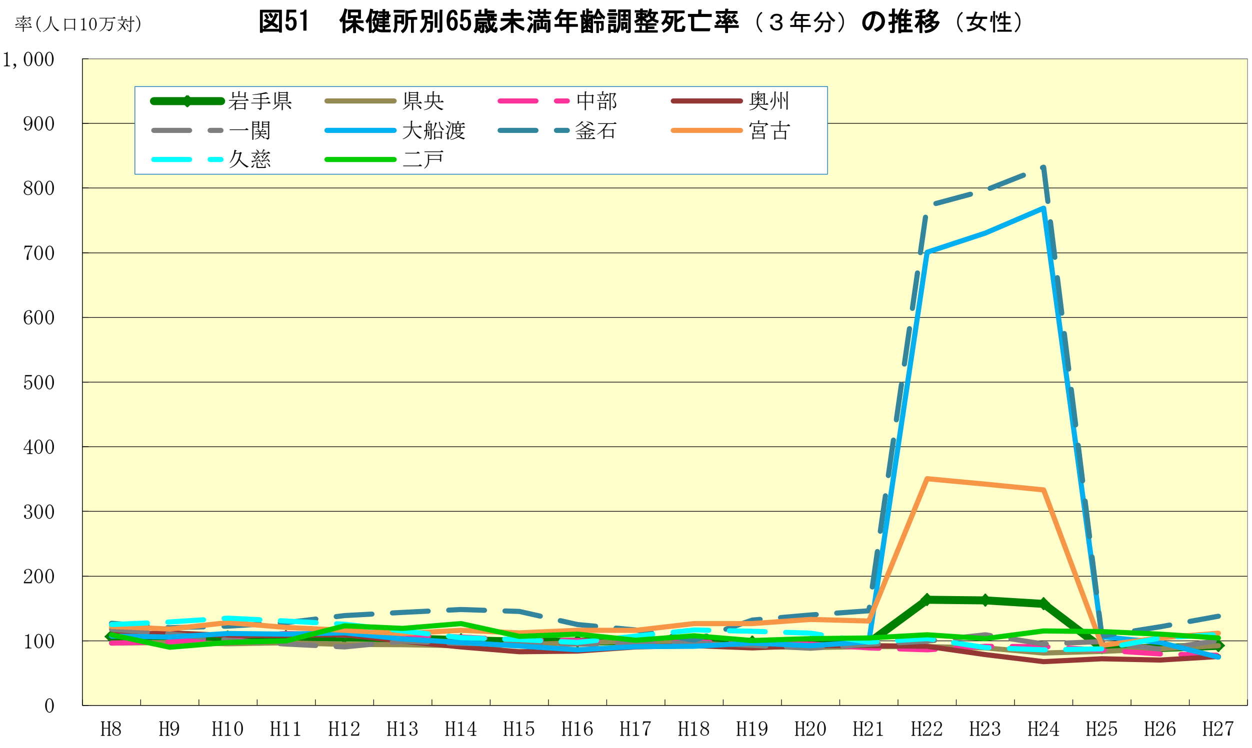
同じく、平成８年（３年分）から平成 27 年（３年分）までの保健所別**女性**の全死亡の年齢調整死亡率の推移（図 50）及び 65 歳未満の年齢調整死亡率の推移（図 51）を示す。

各保健所とも年齢調整死亡率は緩やかに**減少**している。

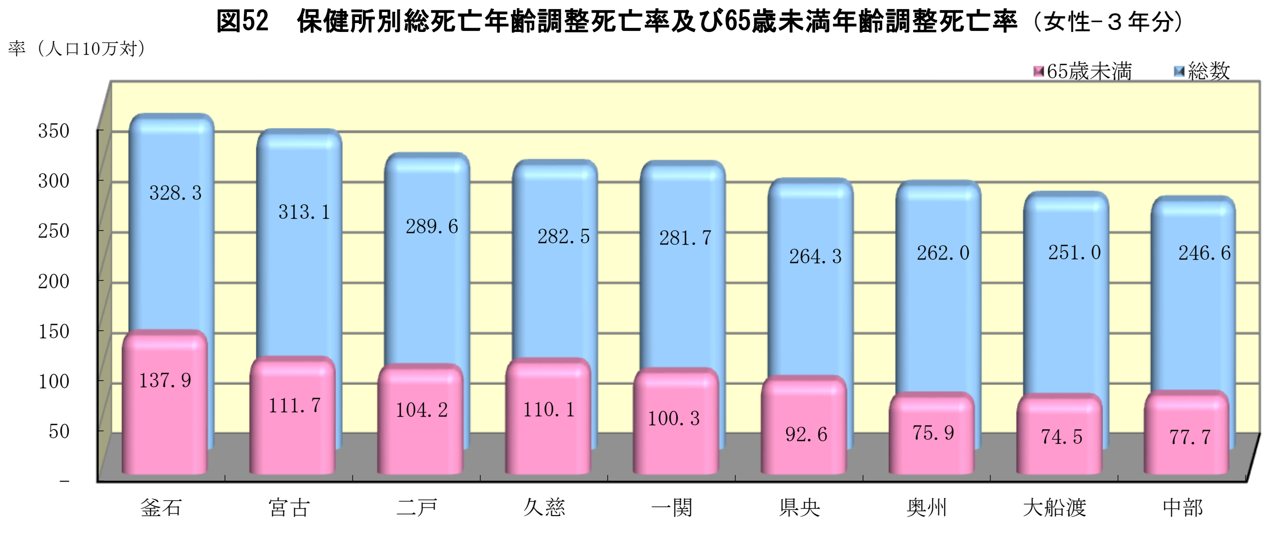
図50　保健所別総死亡年齢調整死亡率（３年分）**の推移**（女性）



※縦軸の目盛は、本来0からのスケールであるべきだが、保健所毎の相違がわかりにくいことから200からの設定とした



さらに、最新年（３年分）の**女性**の全死亡の年齢調整死亡率及び 65 歳未満の年齢調整死亡率について保健所別に示す（図 52）。

女性では、総死亡の年齢調整死亡率で最も高いのが釜石保健所管内であり、最も低い中部保健所管内とは 81.7 の差となっている。

釜石保健所管内は 65 歳未満でも最も高く、最も低い大船渡保健所管内とは 63.4 の差となっている。